

放射性セシウムの果樹樹体内における動態 – 土壌から樹体への移行も考える –

¹高田大輔, ²佐藤 守, ²阿部和博

(¹農学生命科学研究科, ²福島県農総セ果樹研)

土壌部分を被覆あるいは未被覆で栽培したモモを用いて試験を行った結果、事故から半年にあたる 2011 年の果実収穫までに限ってみれば、土壌からの移行よりも果樹樹体に直接降り積もった放射性 Cs が樹体内や果実への移行した割合が極めて高かったことを報告した（第二回報告会など，図 A）。しかしながら，土壌から樹体への放射性 Cs の移行についても存在することは明らかであり，フォールアウトを受けた旧枝を汚染源とする場合と土壌を汚染源とする場合を比較する必要がある。そこで，浅根性の樹種であるイチジクとそうでないブドウを用いて，土壌の汚染状況の違いが，樹体や果実への放射性 Cs の移行に及ぼす影響を見た（図 B）。さらには，土壌以外の汚染源の影響を明らかにする目的で，温室内で放射性 Cs のほとんどない条件で栽培したブドウに，フォールアウトにより放射性 Cs に汚染された枝を接木し，その枝より発生した果実や，非汚染である樹体本体にどの程度の放射性 Cs が移行するのかを調査した（図 C）。これらの知見を中心に，樹体内に存在する放射性 Cs の動向と土壌から樹体への放射性 Cs の移行を比較，紹介する。

要約：汚染された旧枝から果実に移行する放射性 Cs の割合は，土壌より果実に移行する放射性 Cs に比べて極めて高い割合であることが明らかとなった。

